

平成17年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 マダイ

学名 *Pagrus major*

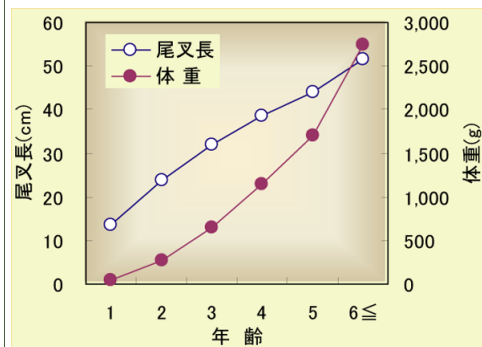
系群名 太平洋南部系群

担当水研 中央水産研究所



生物学的特性

寿命: 10歳以上
成熟開始年齢: 3歳
産卵期・産卵場: 春季(3~6月)、沿岸域
索餌期・索餌場: 周年、沿岸域
食性: 稚魚は多毛類、端脚類、アミ類、クモヒトデなど、未成魚以降はエビ・カニ類、貝類、イカ類、小型魚類など
捕食者: 大型魚類

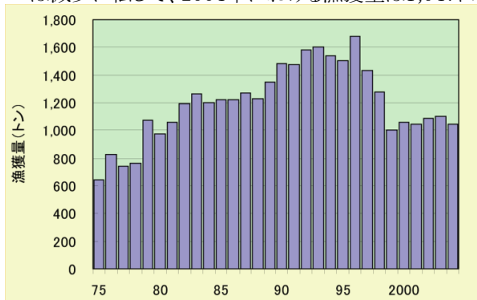


漁業の特徴

太平洋南部では釣り、刺網、定置網による漁獲量が多く、この3漁業種類で約80%を占める。

漁獲の動向

漁獲量は1990年までは増加傾向にあり、以降1996年までは1,500トン前後の安定した水準を維持していた。その後は減少に転じて、2004年における漁獲量は1,047トンとピーク時の65%の水準にまで減少している。

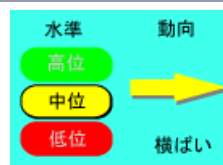


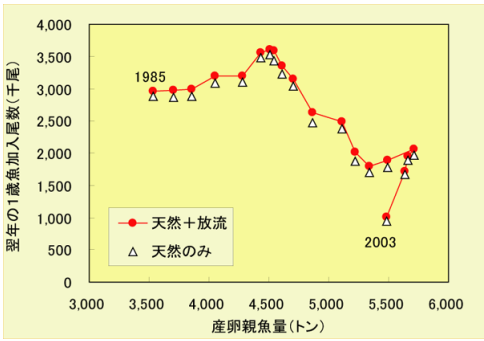
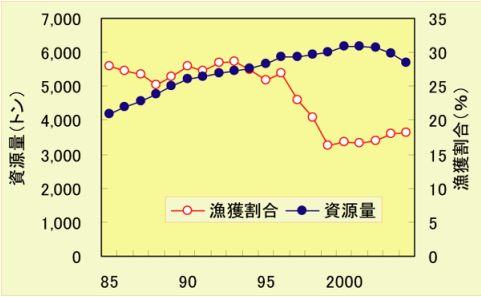
資源評価法

1983年以降の年別年齢別漁獲尾数推定結果を基に、Popeの近似式を用いたコホート解析により年齢別資源尾数、初期資源量および漁獲係数を推定した。ここで、当歳魚については漁獲尾数推定値にばらつきが大きく、一方で漁獲量に占める割合は小さいため計算から除外し、1歳以上を計算対象とした。また6歳以上のプラスグループの漁獲係数は5歳と同値とし、直近年の年齢別漁獲係数は漁獲量が減少に転じた1997年以降の平均値とした。

資源状態

資源量は、2000年の6,188トンとピークに2004年は5,693トンと漸減しているものの、その資源量は中位で、資源水準は安定して推移している。漁獲強度の低下により高齢魚資源は比較的高い水準にあるものの、再生産成功率が低い水準で低迷しており、年々の加入量は横ばい傾向にある。





管理方策

F値は漁獲量が多かった1990年代半ばと比べて近年は低い水準で推移していると思われ、加入量は減少しているものの親魚量は高い水準を維持している。現状のF値($F_{current}=0.22$)は $F_{40\%}(0.23)$ および $F_{max}(0.30)$ を下回っており、加入乱獲および成長乱獲の状態にはないものと判断される。

	2006年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	933トン	$F_{current}$	0.22	18%
ABCTarget	764トン	$0.8F_{current}$	0.18	15%

- F値は2004年の完全加入年齢である4歳の値
- ABCは、大隈・熊毛海域を含めた値

資源評価のまとめ

- 近年の漁獲量はピーク時と比較して低迷しているものの、資源量および親魚量は概ね安定傾向にある
- 再生産成功率の低下により近年の加入量は低迷しているが、同時に漁獲強度も低い水準で推移している
- 数百万尾規模の種苗放流が行われているが、放流数は漸減傾向にある

管理方策のまとめ

- 漁獲強度の現状維持を管理目標とする

資源評価は毎年更新されます。